

【令和2年度】 学 校 教 育 診 断 集 計 表 及 び 考 察

この診断結果をご覧ください皆様へ		【診断について】	
今回実施しました「学校教育診断」は市内全小中学校で実施されている「学校自己評価」の朝明中学校版として行っているものです。 本校としては、この診断結果及びアンケートに書いていただいた個別の意見を十分検討して、より良い学校づくりに努めて参りたいと思います。		○ この「学校教育診断」は、本校の教育活動を教職員だけでなく生徒や保護者の皆さんにも診断して頂き、その改善に役立てるために実施しています。昨年度と同様、全生徒及び保護者にお願ひしました。 ○ 4段階評価の結果を平均値で表示しております。その数値が4段階の中間値(2.5 ととらえます)より上か下かを見ることで、「できた」と評価した人の割合が多いととらえることができるか、またはその逆かを判断しやすくするためにしたものです。従って、〔2.5〕以上のものについては「概ね	

	診 断 内 容	設 問 内 容	回収率＝		教職員用	生徒用	保護者用	項目別考察		
教育目標	1 学校教育目標・学校づくりビジョンの適正	教①：学校教育目標・学校づくりビジョンは、生徒たちの実態に即した適切なものである。 保①：学校教育目標・学校づくりビジョンは、子どもたちの実態から見ても適切なものである	①	(3.4)	①	(3.2)	①	(3.2)	教職員が±0ポイント、保護者が－0.1ポイント。コミュニティスクールの取組を明確にし、地域と共にある学校づくりを盛り込んだビジョンは、一定の理解を得ていると考える。	
	2 学校教育目標・学校づくりビジョンの実現に向けた努力	教②：学校教育目標・学校づくりビジョンの実現に向けて適切な取組を行っている。 生①：先生は、朝明中学校を「良い学校」にするために努力している。 保②：学校の教育活動は、全体的に見て満足できる。	②	(3.4)	①	(3.4)	②	(3.2)	教職員が－0.1ポイント、生徒が+0.1ポイント、保護者は+0.1ポイント。引き続き数字としては高い評価が得られているが、教職員の意識をさらに高め、ビジョンの実現に向けて、学校づくりに取り組んでいかなければならない。	
学習面	3 わかる授業	教③：基礎・基本の定着を図るため、指導内容の精選や授業改善・工夫をしている。 生②：先生は、授業を分かりやすく教えてくれる。 保③：子どもは、学校で授業をていねいに分かりやすく教えてもらえると感じている。	③	(3.4)	②	(3.4)	③	(3.0)	教職員が±0ポイント、生徒は+0.1ポイント、保護者は+0.1ポイント。新型コロナの影響を受けて、通常の形での授業ができない中、昨年より生徒や保護者から高評価を得ているのは、ある種の成果と受け止められる。相対的に保護者の評価が低いのは、子どもの学力に不安を持つ保護者が多く、授業を「分かっている」と言えないことが考えられる。基礎基本の定着を図るための授業改善や補充学習等、学力向上に向けた取組の充実に一層努めたい。	
	4 特別支援教育の充実	教④：生徒一人ひとりの特性やニーズに応じた指導・支援を工夫している。 生③：先生は、一人ひとりに応じた学習や生活面でのサポートをしてくれる。 保④：学校は、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を工夫している。	④	(3.2)	③	(3.3)	④	(3.1)	教職員が－0.1ポイント、生徒は±0ポイント、保護者が+0.1ポイント。学校として、合理的配慮をふまえた、特別支援教育や不登校対策に取り組んできた。一人ひとりの考えを生かした話し合い活動などが充分でない中、教職員からの評価は下がったが、生徒や保護者からの評価が下がっていないのは、授業について一定の評価が得られていると見る。	
	5 特色ある教育課程の編成	教⑤：総合的な学習の時間や行事等は、特色ある教育課程をめざしたものとなっている。 生④：総合的な学習の時間や行事等には、興味や関心を持って取り組める。 保⑤：学校は、総合的な学習の時間や行事等で、特色ある教育活動を行っている	⑤	(3.4)	④	(3.5)	⑤	(3.2)	教職員が±0ポイント、生徒が－0.1ポイント、保護者が±0ポイント。上の各項目では、昨年度比で生徒から高い評価を得てきたが、この項目は、生徒の評価が下がった。新型コロナの影響で削減・変更された行事が多く、必然的な結果である。来年度、新型コロナの影響下においても充実感の得られる活動を模索していきたい。	
	6 道徳・人権教育の充実	教⑥：「心の教育」の充実のため、道徳・人権教育の推進に努力している。 生⑤：学校では、思いやり、命の大切さ、社会のルール、人権などを学ぶ機会が多い。 保⑥：学校は、豊かな心をもち人権を大切に子どもを育てようとしている。	⑥	(3.6)	⑤	(3.6)	⑥	(3.2)	教職員が－0.2ポイント、生徒が－0.1ポイント、保護者が+0.1ポイントであった。2学期以降に、性に関する講演会、ネットモラル講座、人権講座などを開催することができたが、緊急事態宣言などを横目で見ながらの決行で、余裕を持った時間設定と計画ができたとはいえず、そのため教職員の中での評価は低くなった。新型コロナの影響がなくなったら、計画的で実りあるさまざまな取り組みを推進したい。	
	7 進路指導の充実	教⑦：生徒の興味、関心、適性に配慮し、3年間を見通したきめ細かい進路指導を行っている。 生⑥：学校では、進路について十分に学ぶことができ、進路の情報も知らされている。 保⑦：学校は、進路に関して十分な学習を行い、家庭への適切な情報提供も行っている。	⑦	(3.1)	⑥	(3.2)	⑦	(3.1)	教職員が±0ポイント、生徒が+0.1ポイント、保護者が±0ポイント。1年時から進路学習をキャリア教育の視点、生き方指導として取り組み、一定の成果を得ている。入試制度が年々変化し、細分化する中、今後さらに、3年間の系統性を踏まえるとともに個々の生徒に応じた進路指導に努めていく。	
	8 適切な評価	教⑧：生徒の能力、努力、学力を適切に評価している。 生⑦：先生は、学習の評価を適切に行ってくれる。 保⑧：学校は、子どもの能力、努力、学力を適切に評価してくれる。	⑧	(3.5)	⑦	(3.5)	⑧	(3.1)	教職員－0.2ポイント、生徒±0ポイント、保護者+0.2ポイント。評価を受け止める立場の生徒と保護者からは、一定の理解が得られている。教職員間では、コロナ下で定期テストの範囲や回数が大きく変わるなど、対応に悩まされたとの声があり、評価の低下につながった。	
	9 「朝の読書」の有効性	教⑨：「朝の読書」により、読書の関心が高まり、落ち着いた学校生活が送れるようになった。 生⑧：「朝の読書」で、読書するようになったり、落ち着けるようになったりしてきた。 保⑨：生徒は、「朝の読書」により、読書に関心を持ったり、落ち着けるようになったりしてきた。	⑨	(3.4)	⑧	(3.4)	⑨	(3.0)	教職員・生徒・保護者ともに+0.1ポイント。どの学年も落ち着いた朝の読書に取り組めており、その雰囲気と効果について、定まった評価が得られているといえる。今後も、朝の読書の時間に限らず、日常的な読書習慣が身につくような手立てを一層講じていく。	
	生活面	10 充実した学校生活	教⑩：生徒は、伸び伸びと学び、充実した学校生活を送っている。 生⑨：学校生活は楽しいと思う。 保⑩：生徒は、学校生活を楽しく過ごせるようになってきた。	⑩	(3.3)	⑨	(3.5)	⑩	(3.3)	教職員、生徒とも±0ポイント、保護者は+0.1ポイント。生徒の高い評価を維持できていることは、生徒が安心して学校生活を送ることができていることの現れである。しかし、充分に自分を出せないでいたり、周囲に合わせてしまっていたりする等、悩みを抱えている生徒がいて、不登校生の数が減少しない一端であると考えている。そのような生徒に常に目を配り、生徒指導や仲間づくりに取り組んでいく。
		11 充実した学校生活②	教⑪：生徒は、学校や地域で自分からあいさつをすることができる。 生⑩：学校や地域で、自分からあいさつをしている。 生⑪：行事や集会などで、校歌をしっかりと大きな声で歌えている。 保⑪：生徒は、学校や地域で自分からあいさつをしていると思う。	⑪	(2.5)	⑩	(2.4)	⑪	(3.1)	生徒、保護者に関しては大きな変化は見られない。しかし、依然として、教職員からの評価は低く、唯一、規準である2.5を下回っている。昨年度に引き続いて、生徒会が中心となり、定期的に朝のあいさつ運動に取り組んだが、全ての生徒に「自分からあいさつする」ことが浸透しているかという点、教職員間では、そうではないという意見が多い。まずは、教職員による生徒へのあいさつ、来校者へのあいさつを意識して行っていくことも生徒への見本となることを考え、励行していく。
		12 生徒指導上の問題への対応	教⑫：いじめや暴力行為などの問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。 生⑫：先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。 保⑫：学校では、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	⑫	(3.3)	⑪	(3.4)	⑫	(3.2)	教職員が±0ポイント、生徒と保護者が+0.1ポイント。ここ数年、大きな問題行動や暴力行為、触法行為はほとんどないが、逆に日常的な生徒間のトラブルや不登校生徒は減少していない。高評価が続いていることは、それらのトラブルに学校職員が真摯な態度で共感的・組織的に関わっていることの表れでもあるが、今後も安全に楽しく過ごせる学校環境づくりを進めるとともに、保護者に対してにも常に丁寧に、指導方針や指導結果の報告についての説明を行っていく。
		13 カウンセリングマインドに基づく生徒との関わり	教⑬：生徒とのふれ合いを大切にして、生徒の心に寄り添う生徒指導に努めている。 生⑬：先生は、親身になって接してくれる。 保⑬：生徒は、先生たちが親身になって接してくれると感じている。	⑬	(3.4)	⑫	(3.4)	⑬	(3.2)	教職員－0.1ポイント、生徒±0ポイント、保護者+0.1ポイント。引き続き、生徒・保護者から高評価を得ている。学校現場において生徒や保護者の心に共感的に寄り添う指導は、最も信頼を得られ、重要である。教師の歩調が乱れても、高評価は得られない。今後も引き続き、休み時間等の生徒とのふれあいや教育相談・家庭訪問等を大切にして、生徒や保護者との信頼関係の構築に努めていきたい。
		14 部活動の充実	教⑭：課外活動の役割を認識し、部活動の指導に取り組んでいる。 生⑭：部活動は、楽しく充実している。 保⑭：お子さんは、部活動が楽しく充実していると感じている。	⑭	(3.3)	⑬	(3.6)	⑭	(3.2)	教職員が±0ポイント、生徒が－0.1ポイント、保護者が+0.1ポイント。生徒の評価が昨年に続き低下傾向であるのは、勤務時間の縮減に関わり、活動できる曜日や日数を限定したことが要因と思われる。しかし、必要不可欠な取り組みであるので、限られた時間の中で、充実感・達成感の得られる部活動のあり方を工夫していく。
家庭や地域の関係に広がる学校づくり		15 保護者や地域の人たちとの連携	教⑮：「地域に開かれた学校づくり」をめざし、保護者や地域の人たちとの連携を大切にしている。 生⑮：授業参観や総合的な学習の時間等で、家族や地域の人たちに学校へ来ていただく機会がある。 保⑮：学校は、授業を公開したり、子どもたちが地域の人たちに教えてもらう機会を設けている。	⑮	(3.4)	⑭	(3.5)	⑮	(3.4)	教職員、生徒、保護者ともに－0.1ポイント。新型コロナの影響により、PTAと協働する「フラワーオアシス」が実質1回、除草作業も密と暑さを避けてPTA単独で行うなど、停滞した活動分野であり、保護者の受け取りは予想された通りである。コミュニティスクールの取組も6年目となり、総合的な学習の時間を中心に地域の方と触れ合う機会や、学校公開時や行事で保護者や地域の方に学校に足を運んでいただく機会が増えてきた矢先であり、来年度の活動の充実を図りたい。
	16 危機管理体制(安全対策)	教⑯：日常的な安全指導や、不測の事態に対処できる不審者対応などの危機管理体制が整っている。 生⑯：安心して学校生活を送ることができる。 保⑯：学校は、生徒が安心して学校生活が送れるよう安全に配慮している。	⑯	(3.3)	⑭	(3.5)	⑯	(3.3)	教職員が－0.1ポイント、生徒、保護者は±0ポイント。成果が目に見えにくい項目であるが、高評価である。日々の学校生活の安全と、有事を想定した防災等の備えを両輪として、現実に応じた防災訓練の企画なども推進していく。	
	17 情報発信の努力	教⑰：懇談会や学年通信・HPなどで、学校の様子などを保護者や地域に分かりやすく伝えている。 保⑰：学校は、懇談会や通信・ホームページなどで教育方針や学校の様子をわかりやすく伝える。	⑰	(3.3)			⑰	(3.2)	昨年度同様、高い評価を得ている。教職員が+0.1ポイント、保護者の評価は+0.1ポイント。コミュニティスクールの取組以降、以前より情報発信の機会は増やしており、一定の評価を得ることができていると考える。また教職員側も、発信の意識が高位で維持されており、引き続き、より学校を身近に感じられるように、様々な発信を仕掛けていく。	
	18 情報受信の努力	教⑱：家庭訪問などを通して、保護者や地域の人たちの願いを掴むように努力している。 保⑱：学校は、親や地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。	⑱	(3.4)			⑱	(3.3)	教職員が－0.1ポイント、保護者が－0.1ポイント。情報発信の項が上昇傾向にあるのに対して、こちらの情報受信の項は低下傾向が表れた。学校は充分に家庭や生徒のことを把握しているのかどうか、確信を持っていないという人が増えている一方で、より一層、丁寧に密な連絡を心がけていく。	
	19 教職員の応対（接遇）	教⑲：保護者や地域の人たちからの問い合わせや来校者に対して、誠実に対応している。 保⑲：学校(教職員)は、電話での問い合わせや学校を訪問したときに、誠実に対応している。	⑲	(3.5)			⑲	(3.4)	教職員は－0.1ポイント、保護者は±0ポイント。意識的に4.0ポイントを狙える項目であるが、満たないのは、来校者へのあいさつにしても、近くの者や担当の者に任せきりで、まだ充分でないことの表れとみる。個々の意識を高めて、4.0ポイントを達成するよう努力していく。	

※集計欄の左上の○数字は、それぞれの設問内容の番号。集計欄の数値は、4段階評価の平均値。○数字の右の（ ）内の数値は、昨年度の類似設問の平均値。